学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2026年2月26日
第55号

国スポ・スキー 五十嵐暖2連覇

6位入賞 山田悠貴、田野双葉

青森県で開催された国民スポーツ大会に北海道選手団として本校から5名が出場し、少年男子で五十嵐暖くん（3-4）が二連覇を成し遂げた。また、山田悠貴くん（1-4）が6位に、少年女子で田野双葉さん（3-3）が6位に入賞した。

↑　↑
優勝・五十嵐暖くん・6位・山田悠貴くん
（山田くんは高校で全国初入賞。少年男子の表彰式）記録：42位・鈴木瑛太くん

↑　↑
五十嵐暖くん・山田悠貴くん

インターハイ・国スポ・高校選抜すべて入賞 田野双葉さん 有終の美を飾る

6位の表彰を終えた田野双葉さん

少年女子組で出場した田野双葉さんにとって、ラストレースとなった今大会で6位に入賞した。玉川祐介監督によると「高校3年間で出場したインターハイ、国スポ、高校選抜、全ての大会で入賞は素晴らしいです。この記録の裏にはもの凄い努力がありました。さすが双葉、最後もしっかり滑ってくれました。お疲れ様」とコメントしている。石水ほたるさん（1-2）は17位に入った。鈴木くん、石水さんにはこの悔しさを次の選抜への活躍につなげてほしいという。

坂東元の鉄道日記 関西の旅（2）

12月28日。二日目。私は午後から買い物のため一人で天王寺駅に居た。天王寺駅は、阪和線、大阪環状線、大和路線、近鉄電車、阪堺電車、大阪メトロが乗り入れる巨大ターミナル駅である。その歴史は古く、私の知らないことも多い。私はそんな天王寺駅の阪和線ホーム端を目指した。理由は、鶴ヶ丘駅に帰るための列車待ちで時間があったからである。その道中「電車にご注意下さい」というテープが床に貼られていることに気が付いた（上写真）。そのテープの文字の上部には、かつて阪和線内を走行した205系電車のマークが残されており、懐かしさと時代の流れを感じた。ホーム端に近づくと、昔懐かしい水飲み場（右下写真）があり、古き良き鉄道駅の雰囲気を醸し出している。私はこの古い雰囲気がとても好きだ。ホーム端に着くと、兄ちゃんがカメラを携えており、同業者だとわかった。列車侵入のアナウンスが流れ、正面から列車が侵入してくる。この225系5000番台四両編成であった（上写真は225系5100番台、5000番台とは少し顔が違う）。すぐに、同じ225系の区間快速が侵入してきたため、自分の居る8番のりばの有効長は、八両編成ほどである。そのためその更に四分ほどの散歩をしてから乗車した。15時前、列車は天王寺駅を後にした。発車すぐ、右側の車窓には大阪環状線、大和路線の線路が見える。その更に向こう側にJR西日本の建物があるが、その建物の窓に、「特急くろしお60周年」を宣伝する張り紙がしてある（上左写真）。今の時代、車窓を眺めることも少なく広く認知されていないかもしれないが、鉄道好きとしてはとても嬉しいものである。この張り紙は何度か見ているものの、文字の前にはかつて特急くろしおとして走った381系特急電車のデザインが用いられている。これを見るたびに、自分の幼少期の懐かしい思い出に浸り、JR西へ感謝をするのである。

鶴ヶ丘に着くと、いつものように列車を眺めるのが習慣である。私が小学校に入る前は、多くの車両が行き交った阪和線も列車の更新や統一で少し物足りなくなってしまったが、「くろしお60周年」に際して、特急「くろしお」として運用されている287系電車に特別ラッピングを施している（左写真）。そのため、私から見る阪和線の魅力は増大しているのであった。丁度、二本の「ラッピングくろしお」が上下線で運用についており、ラッピング車を初めて見ることができた。結局この日は、40分ほどホームに止まっていた。

JR西日本 287系 ラッピング仕様「特急くろしお」 京都・新大阪と白浜・新宮を結ぶ特急列車